

解説：諸石幸生(音楽評論家)  
福井末憲(録音エンジニア)  
特別演奏：岩崎 洸(チェロ)

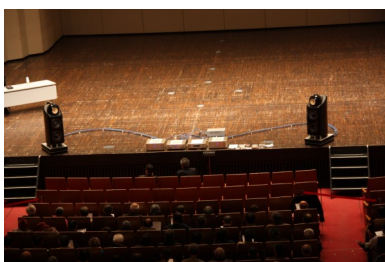
# 大劇場で聴く レコードコンサートvol.1

2012年1月28日(土)14時開演 よこすか芸術劇場

一世紀以上にわたり録音という形で残されてきた歴史的名演を音響に定評がある横須賀芸術劇場の大劇場で、最高級のオーディオシステムを使用して再現。この画期的な企画に公演前から多方面で話題となり、当日は1,200名のお客様で会場が埋め尽くされました。

## 大劇場のステージに鎮座するスピーカー

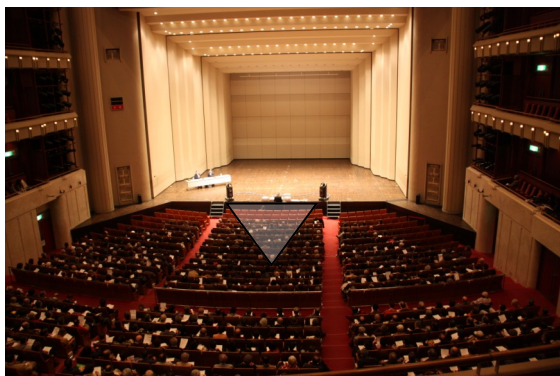
ステージの中央には、お客様を見つめるような愛らしい容姿のイギリス製B&W「800Diamond」スピーカーを2台設置。使用ケーブルはオーディオクエストSKY, EVE REST。なんと99.9%の純銀性。アンプ、プレイヤーはともにマランツ製を使用。音楽評論家の諸石氏と録音家の福井氏の司会と解説により公演はスタート。



前半は高音質CDにて、バレエ音楽「三角帽子」(ファリヤ)から序奏と終幕の踊り(プログラムは次ページを参照ください)ほか、7曲を再生。重厚な音楽がホールに響き、目の前で演奏しているような臨場感に、目を閉じてじっくりと音楽に聴き入るお客様たち。



一つの演奏をみんなで聴くという幸福感は、レコード視聴の原点ではないでしょうかと福井氏。



スピーカー間を一辺とした正三角形の頂点が今回のリスニング・ポイント

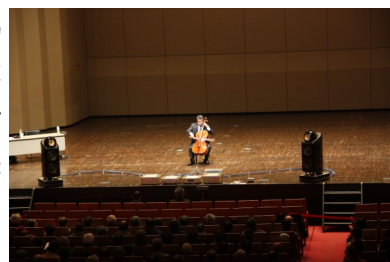
## 後半は、ガラスCDとノーマルCDの聴き比べからスタート

今話題のガラスCD。開発者でもある福井氏からガラスCDの音質に優れている仕組みや、ガラスCDが人類の遺産ともいべき歴史的音源の保存にふさわしいメディア

であることなどを紹介。同一のプレス原盤でつくられたノーマルCDとガラスCDの音質のクオリティーがどれだけ素晴らしいかを聴き比べ、その音質の差に多くの方が驚きの声を漏らしていました。

## カザルスに師事した岩崎洸氏が生演奏

今回の特別企画でもある生演奏との聴き比べ。巨匠パブロ・カザルスの1936年録音、バッハの無伴奏チェロ組曲を視聴したのち、カザルスに師事した岩崎氏が、同曲を演奏。岩崎氏の熱のこもった素晴らしい演奏に会場が沸き立ちました。このような演奏家泣かせの大胆な企画を快く承諾いただいた上に演奏後、岩崎氏は「20歳の時にカザルスにこの曲を教えてもらった。不思議とその時に引き戻されたようで、いい勉強になりました」と。岩崎氏への敬服の念をさらに感じるコメントでした。



## 最後はカラヤン指揮の「第九」を視聴

ガラスCDの中でも20万円と高価格で話題となったカラヤン指揮「第九」の4楽章を最後に視聴。迫力ある歓喜の歌で公演は終了しました。



終演後には、熱心なお客様がオーディオについて質問をしたり、ロビーではガラスCDに手を触れていました。

## 再生音楽と生演奏、それぞれの良さ

再生音楽を大劇場という空間で視聴するという、実験的な公演は、再生音楽と生演奏の音の違い、それぞれの良さを味わうことができたひと時だったのではないのでしょうか。これからも音楽を愛する皆様に素晴らしい公演をお届けしていきます。

# 大劇場で聴くレコード・コンサート vol.1

1月28日(土) 開演:14:00(終演予定:16:00)

主催：公益財団法人横須賀芸術文化財団

後援：株式会社ディーアンドエムホールディングス

協力：有限会社エヌ・アンド・エフ

【司会】 諸石幸生

【解説】 諸石幸生、福井末憲

【オーディオ機器操作】 澤田龍一

【チェロ演奏】 岩崎 洸

## 曲目と音源CD

### ● 高音質CD

1. バレエ音楽「三角帽子」(ファリャ) から序奏と終幕の踊り  
アンセルメ指揮 スイス・ロマン管弦楽団、テレサ・ベルガンサ(メゾ・ソプラノ) 1961年2月録音
2. バレエ音楽「白鳥の湖」(チャイコフスキー) から序奏、第二幕の「情景」  
フィストウラーリ指揮 アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団 1961年2月録音
3. ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466(モーツァルト) から 第一楽章もしくは第二楽章  
クリフォード・カーゾン(ピアノ) ベンジャミン・ブリテン指揮 イギリス室内管弦楽団 1970年9月録音
4. 交響曲第5番「運命」(ベートヴェン) から第一楽章  
パーヴォ・ヤルヴィ指揮 ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 2006年8月録音
5. 交響曲第93番～第104番“ロンドン・セット”(ハイドン) から  
マルク・ミンコフスキー指揮 レ・ミュージシャン・デュ・ルーヴル・グルノーブル 2009年6月録音
6. 歌曲「シルヴィアに」「リュートに寄せて」「幸福」  
アーメリング(ソプラノ) ボールドウィン(ピアノ) 1973年8月録音
7. 「花の曲」作品19(シューマン)  
ホロヴィッツ(ピアノ) 1966年カーネギーホール・ライブ録音

◆◆◆◆休憩10分◆◆◆◆

### ● ガラスCD

8. 無伴奏チェロ組曲第三番ハ長調BWV1009(バッハ) から  
「プレリュード」、「ブーレ」、「ジーク」 パブロ・カザルス(チェロ)
9. ～岩崎 洸によるチェロ演奏～  
無伴奏チェロ組曲第三番ハ長調BWV1009(バッハ) から  
「プレリュード」、「ブーレ」、「ジーク」
10. 交響曲第9番ニ短調作品125(ベートーヴェン) から第四楽章  
カラヤン指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

## 本日使用のオーディオ機器

---

■ B & W スピーカーシステム 800Diamond  
■ マランツ ステレオプリアンプ SC-7S2

■ マランツ SACD/CD プレーヤー SA-7S1  
■ マランツ モノラルパワーアンプ MA-9S2

### [オーディオ機器についてのお問合せ先]

株式会社ディーアンドエムホールディングス お客様ご相談センター 電話:(03)3719-3481

## プロフィール

---

### ■ 諸石幸生 (もろいし さちお) 音楽評論家

早稲田大学卒業後、(財)音楽鑑賞教育振興会に勤務、鑑賞指導用音楽資料のレファレンスを行うとともに、「演奏家大事典」の編集・刊行を行う。

1980年から音楽評論を始め、CDの解説、新聞、雑誌、演奏会用プログラムへの執筆、放送番組解説などを行う。著書に「トスカニーニ、その生涯と芸術」(音楽之友社)など多数。また雑誌「音楽通信」(ステレオサウンド)も創刊した。この他、イーヴォ・ポゴレリッチ国際ピアノ・コンクール審査員、イギリスの音楽雑誌「ICRC」誌のアジア・レポーター、レコード・アカデミー賞選定委員などを務める。

### ■ 福井末憲 (ふくい すえのり) 録音家/Balance Engineer

1967年日本フォノグラム入社。森山良子、キャロル、石川セリ他、ドキュメンタリー作品「禅」やクラシック音楽など幅広いジャンルの録音制作を担当。アップル・コンピューター採用のDAW(ソニックソリューションズ)業界導入と普及を推進した。ユニバーサルミュージック録音事業部長を務め、01年西協義訓と(有)エヌ・アンド・エフ設立。06年世界初ガラス製音楽CDを開発。録音家として今日に至る。

### ■ 澤田龍一 (さわだ りゅういち)

1977年、日本マランツ株式会社入社。81年より商品企画部にてマランツ高級オーディオコンポーネント担当、主に音質検討に携わる。後にスピーカープロジェクトマネージャーを兼任。93年より輸入を始めたB&Wスピーカーにも関わる。2001年以降マランツ音質責任者。現在、株式会社ディーアンドエムホールディングス CEエンジニアリング設計本部マランツ音質担当マネージャー。

### ■ 岩崎 洸 (いわさき こう) チェロ奏者

11歳より齋藤秀雄に師事。桐朋学園高校を経て、アメリカのジュリアード音楽院に留学。レオナード・ローズ、ハーヴィー・シャピロ、パブロ・カザルスに学ぶ。ヤング・コンサート・アーティスト・オーディションをはじめとし、カサド、チャイコフスキーなどの国際コンクールに上位入賞。沖縄ムーン・ビーチ・ミュージックキャンプ&フェスティバルのディレクター、倉敷市文化振興財団音楽プロデューサーなどを務めた。現在、桐朋学園大学院大学教授。

#### ◆◆お願い◆◆

携帯電話、アラーム時計をお持ちの方は電源を必ずオフにしてください。  
開演中の、許可のない撮影、録音、録画はお断り致します。